

はまかせ

風が運ぶお知らせ便り♪

2013.04
Vol.04

ワンランク上の病院をめざして

私たちは、患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって、地域社会に貢献します。



Photo: 新西宮ヨットハーバー

nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

Message メッセージ

すべての腎疾患を網羅し、
Minimally invasive surgery を目指す

■概要、Q&A、スタッフ紹介 etc.

Information お知らせ

■にしびようTopics

脳卒中当直/最新鋭の骨密度測定装置を導入しました

■糖尿病対策

DPP-4阻害剤使用時の注意事項

■患者サービスの向上をめざして

■院長エッセイ「四季雑感」

ポリフェノール

■医療技術NOW!

リハビリテーション科より

■絵の中の風景を旅するvol.4

にしびよう美術館館蔵品を毎回紹介



すべての腎疾患を網羅し、Minimally invasive surgeryを目指す

腎疾患総合医療センター 医師：西村憲二、林大祐



当 院では2006年4月に腎疾患総合医療センターを開
設し、泌尿器科と腎臓内科が協力して軽度腎機能
障害から末期腎不全治療である透析、腎移植まで腎疾患す
べての治療を行っています。

腎移植は1973年に開始し現在までに500例を超す症例を
行っています。2001年以降の症例の生着率は生体腎で5年
90.1%、10年87.2%、献腎で5年79.8%、10年75.1%と良好な
成績を得ています。近年は夫婦間移植やABO血液型不適合
移植、先行的移植(透析導入前の移植)の割合が増加してい
ます。また豊富な経験をいかしてHLA抗体陽性移植など
ハードルの高い移植に対しても併設されているHLAセン
ターの協力のもと、安全に行えています。

泌 尿器科では西村と岸川が腹腔鏡技術認定医を取
得しており、副腎、腎、腎盂、尿管の悪性腫瘍手術の
みならず、腎盂形成術や尿管管膿瘍切除などの良性疾患
に対しても低侵襲の腹腔鏡手術を取り入れています。
また小径の腎腫瘍における腎部分切除や腎移植ドナーの
腎採取術も腹腔鏡下で行っています。前立腺癌の腹腔鏡
手術も開始しました。

腎 臓内科では検尿にて尿蛋白が陽性、または急速に
腎機能が低下した場合には積極的に腎生検を施
行し病理組織学的診断のもと適切な治療ができるよう尽
力しております。慢性腎臓病の患者さんに対しては食事療
法、薬物療法に加え心血管疾患の精査を行い、可能であ
れば教育入院も行っております。

また12床の透析室を有し最大36人の入院、外来の透析
患者さんの受け入れが可能であり、血漿交換や免疫吸着
などにも対応しております。



透析室

腎疾患について質問! INTERVIEW

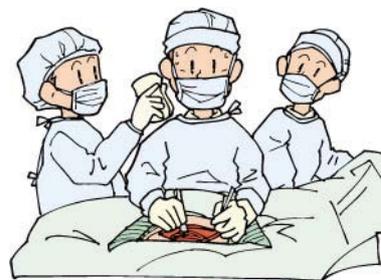


Q 腎不全の治療として「透析療法」と「腎臓移植」の違いはどのような点ですか？

A 透析療法は、腎臓の機能のうち電解質及び老廃物を除去する手段で、治療は定期的に時間をかけて行う必要があります。腎臓移植は腎臓の機能をほぼすべて肩代わりする治療法で、移植後は生活の制約もほとんどないため、生活の質の面で優れています。

Q 腹腔鏡(ラパロ)下手術と開腹手術の違いは何ですか？

A 腹腔鏡下手術は、傷が小さく回復の経過が早いメリットがあります。当院では腎臓、前立腺癌摘出術を腹腔鏡下で行っています。



回答者(病棟看護師長: 俵由紀子)

最新情報

□ 単孔式腹腔鏡手術

単孔式腹腔鏡手術は単一の小切開に器具を挿入して行う腹腔鏡手術で、通常の腹腔鏡手術よりもさらに侵襲の少ない手術で、術後の疼痛は少なく創部も目立たないため美容の面でも優れています。当院では最近同術式で腎臓摘出術を行いました。適応のある症例には積極的に行ってまいります。



スタッフ紹介



- 西村 憲二(腎疾患総合医療センター長)
- 岸川 英史(腎疾患総合医療センター副センター長)
- 平井 利明(泌尿器科医長)
- 佐伯 みずほ(腎臓内科医長)
- 奥野 綾子(腎臓内科医長)
- 林 大祐(腎臓内科医長)
- 米本 佐代子(腎臓内科医長)
- 上田 倫央(泌尿器科医長)
- 中澤 成晃(泌尿器科医長)
- 青木 克憲(腎臓内科医員)
- 川村 正隆(泌尿器科専攻医)
- 藤井 直彦(休職、アメリカ留学中)

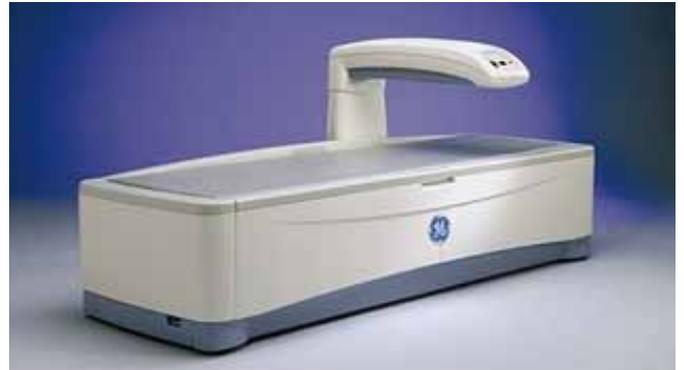
脳卒中当直 (SCU当直)



平成23年より脳卒中ケアユニット(SCU)が本格稼働し、脳卒中専従医が24時間中在院しています。超急性期脳梗塞に対してt-PA静注療法を含めた加療、脳出血、クモ膜下出血に対しても緊急開頭手術を含めた集中治療を行っています。脳卒中には迅速な対応が求められます。当院では、脳卒中専用PHSを携帯し、随時、脳卒中の受け入れ・相談に対応しております。本年より、脳神経外科にモリス・シェイン医長が新たに加わりました。

(脳神経外科部長：榊孝之)

最新鋭の骨密度測定装置を導入しました



今回導入した装置は、DEXA法を用いた骨密度測定装置で、高精度、短時間撮影、低被ばく線量を特長としており、腰椎、大腿骨(股関節)の骨密度が測定可能です。(GEヘルスケア社製 PRODIGY) 地域医療連携センターを通して予約ができます。

(検査・放射線部：竹鼻宏明)

糖尿病対策

DPP-4阻害剤使用時の注意事項

糖尿病治療薬DPP-4阻害剤は、その作用によりインクレチンの分解を抑制し、インスリン分泌を促進して血糖値を下げます。インスリンやSU剤との併用により、重篤な低血糖が起こることがありますので、併用時はインスリンやSU剤の減量を考慮するなど注意して使用してください。

インクレチンとは？

食事摂取に伴い消化管から分泌されるホルモンの一種で、インスリン分泌促進作用、グルカゴン分泌抑制作用があります。DPP-4によって分解されます。

(薬剤部：高村志保)



患者サービスの向上をめざして

敷地内禁煙にご理解、ご協力を

当院では、平成19年度より、敷地内禁煙を実施しており、患者さんや職員にも協力をお願いするとともに、患者サービス向上委員会による禁煙パトロールを実施しております。おかげさまで、かつては大量に見かけた吸い殻のポイ捨てなども大変少なくなりましたが、残念ながら皆無ではないのも事実

です。喫煙は患者さんご本人にとって、治療の妨げになるだけでなく、その副流煙はPM2.5として周りの小さな子供さん達などの健康にも、大きな影響を与えています。吸い殻の持ち帰りも含め、マナーや規則の遵守について、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

(総務部：吉野豪人)



四季雑感



気 候温暖化の影響で四季がはっきりしなくなっているといわれています。それでも日本ではまだまだ季節の移り変わりを実感することはできます。それは日頃雑事に紛れて生活を送る私たちにとって、時の流れを自覚させてくれる贈り物のような気がします。

紅葉の季節になると、山々の頂から色付きはじめ、それが徐々に麓に降りてきて、やがて街中でも木々が紅葉してきます。大都会での暮らしでは、このような変化はともすれば気付きにくいのですが、すこし郊外を散策すると、今でも十分に木の葉が織りなす多様な彩りを味わうことができます。

30年前になりますが、10月に米国の北部をドライブしたことがあります。そこでは全山がモノトーンなオレ

ンジ色に染まっていて、空気までがオレンジ色に輝いていました。一時はその景観に感激したのですが、行けども、行けども同じ風景が続くので、その単調さにやがて飽きが出て、日本の錦織りなす紅葉が恋しくなったのを覚えています。

そろそろ熱い緑茶が恋しい季節です。緑茶に含まれるカテキンなどのポリフェノール類が健康に良いということが言われています。ある研究(4万人の調査)では、一日に5杯以上飲む人は、1杯未満の人に比べると、全体の死亡率は男性で約1割、女性では約2割も減少していたようです。とくに循環器系の疾患には有効だそうです。

この季節、美味しい緑茶を持って、紅葉した野山に散歩にでも出かけましょうか。



院長
河田 純男

医療技術 NOW!

西宮病院の「今」がわかる。

リハビリ部門では現在、外来診療を休止し入院に特化した手厚いリハビリテーションに取り組んでいます。退院されたリハビリ対象者の方には、住み慣れた地域の先生方元でリハビリに取り組んで頂くよう勧めるところです。このように、入院患者さんへのリハビリに特化することで、治療成績も向上しており、退院後の経過も良好と聞いています。地域でのリハビリ治療が急性期のリハビリの充実を支えていると言っても過言ではありません。今後も急性期と回復期(地域)のリハビリ連携が「Win,Win」の関係であることが望ましいと思います。

主任理学療法士：下之園俊隆



絵の中の風景を / 旅する vol.4

<http://www.nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp/>

当院外来ロビーや各病棟には、地域の方々や入院患者さん、そのご家族などからのご寄贈による200点以上にものぼる絵画が飾られています。“にしびょう美術館”の貴重な“館藏品”は、当院ホームページ内の「にしびょうWebミュージアム」でも常設展示していますが、これらの作品の中から、毎回、ちょっと気になる1作品をとり上げてご紹介いたします。一緒に、絵の中の風景を旅してみませんか。



展示場所

本館7階
ナースステーション前の壁面



この絵を見ていると、いつか行った伊根の情景を思い出す。丹後半島の東端にある伊根には、伊根湾に沿って、海面すれすれに、1階は船のガレージや作業場、物置、2階は住居となった「舟屋」と呼ばれる民家が建っている。この作品では、山をバックに舟屋がぼっかりと浮かび、穏やかな海に白い船が繋がれている。日々、船を利用している生活が想像される。海と一体化している生活が、どこか懐かしく、海に囲まれた日本らしさを感じさせるユニークな作品だと思う。

(総務部:足立 彰久)

編集後記

編集室



早いものでもう11月、深まる秋にとつぷりと浸りながら日頃の業務を振り返っております。MSWとして医師・看護師の他多くのスタッフが真摯に患者さんを支えている姿を身近に見ておりますと、私たち地域医療連携センターも「終わりよければすべてよし」となるために、退院という最後の仕上げに心を尽くさなければと、日々思いを新たにしております。全ての患者さん・家族さんに「県西に来てよかった」と心から感じて頂けるように今後も努力してまいります。これからもどうぞよろしくお願い致します。

(地域医療連携センターMSW:杉本極)

HAMAKAZE

2013
Vol.04

兵庫県立西宮病院

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町13番9号
TEL:0798-34-5151(代表) FAX:0798-23-4594
地域医療連携センター FAX:0798-34-4436
E-mail:chiiki-kn@hp.pref.hyogo.jp

nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

2013.11 発行